

指導教員 : 小出 義夫  
審査主査 : 岩崎 邦彦

雪印食中毒・BSE報道と  
消費者・生産者等への影響の時間的変動の研究

学籍番号 994039

齋藤 貴子

平成15年1月14日

# 論文要旨

食品の安全性に関わる出来事が起きたとき、生産者・消費者等はどうのような反応を示すのか。生産者が生産量を減らすなどの調整をしたり、消費者が消費を控えるといったことは起こるのか。

2000年6月に起きた雪印乳業食中毒事件と、2001年9月の日本におけるBSE感染牛発見という2つの出来事を取り上げ、それぞれの問題が起きたとき、新聞報道と生産者・消費者等に実際に影響があるかどうかを調べる。また、雪印食中毒事件とBSE問題という2つの出来事は、異なる原因・異なる商品の特性を持っている。原因や商品の特性が異なる2つの事例について、新聞報道の毎日の量的変化と、それぞれの問題が生産者や消費者等に与える影響の時間的な変動について比較、分析する。

本研究は、第1章で研究の動機や目的、研究の流れ等を示した後、次のような順序、内容で研究を進める。第2章では、雪印乳業食中毒事件を事例に、新聞報道量の変化、消費者や生産者、小売店の酪農品売上、雪印乳業(株)等の株価の変動に影響があるかどうかを調べ、それぞれの影響の変化を新聞報道量の変化と比較する。第3章では、BSE問題を事例に、新聞報道量の変化、生産者、消費者に影響が見られるかどうかを調べ、それぞれに見られる影響の変化を新聞報道量の変化と比較する。第4章では、雪印乳業食中毒事件とBSE問題という2つの事例について、第2章、第3章で得られた結果をもとに、新聞報道量の変化、生産者・消費者の影響の変化を比較し、そのような違いが見られる理由を考察する。第5章では、以上のまとめとして、本研究で得られた成果を示す。

第2章、第3章の分析により、次のような結果が得られた。雪印食中毒事件の場合、(a)報道量は、初日の報道が比較的小さく、徐々に増加するが、事件後約1ヶ月で報道量は0%に近づいていった。(b)生産者の影響として、加工乳生産量には事件の影響が見られたが、(c)消費者の牛乳購入数量には事件前後で顕著な違いは見られなかった。BSE問題の場合、(d)新聞報道量は特集記事を除けば、初日の報道量が最大であり、BSE感染牛が発見されたとき以外にもBSE関連の記事が多く、報道量はすぐには減少しなかった。(e)牛肉生産量は問題が起きた直後に大きく減少するが、豚肉や鶏肉生産量には目立った変化は見られなかった。また、(f)消費者の影響としては、問題発覚後に牛肉購入数量が減少するだけでなく、他の肉の購入数量が増加するといった変化等が見られた。

雪印食中毒事件とBSE問題とで、(a)～(f)のような結果となったのは、2つの事例は、問題としての性格が異なり、かつ牛乳と牛肉とは食品として異なる特性を持っているからである。例えば、消費者の影響に(c)や(f)のような違いが見られた原因には、代替品の有無や、製品に特定の企業名が表記されているか否か等があげられる。

このように、何らかの問題が起きたときに新聞報道、生産者・消費者に見られる影響は、商品のもつ特性の違いや、問題の持つ社会的な位置づけの違いにより異なり、2つの商品が同じ食品であるからといって、同じ影響が現れるとは限らないことがわかった。本研究で分析した雪印乳業食中毒事件とBSE問題は、その典型的な例である。

# 目次

第1章	はじめに	
1.1	研究の目的	1
1.2	研究の手順	2
第2章	雪印食中毒事件	
2.1	事件の経過について	4
2.2	新聞報道量の変化	6
2.3	生産者の影響の変化	8
2.4	消費者の影響の変化	13
2.5	小売店売上の変化	16
2.6	雪印乳業(株)株価の変化	22
第3章	BSE問題	
3.1	事件の経過について	29
3.2	新聞報道量の変化	31
3.3	生産者の影響の変化	33
3.4	消費者の影響の変化	37
第4章	雪印食中毒事件とBSE問題との比較	
4.1	牛乳と牛肉が持つ特性の違い	41
4.2	新聞報道量の比較	42
4.3	生産者の影響についての比較	43
4.4	消費者の影響についての比較	44
第5章	まとめ	46
	謝辞	49
	参考文献	50